研究者総覧：石崎 俊子 (ISHIZAKI, Toshiko)

氏名	石崎　俊子 (ISHIZAKI, Toshiko)	
職名	准教授	
所属講座	日本言語文化専攻日本語教育方法論講座	
学位（専攻分野）	修士（教育学）・University of Leeds 修士（教育学）・University of Kansas	
メールアドレス	ishizaki@ecis.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/staff/ishizaki.html	
研究分野	日本語 CALL（Computer Assisted Language Learning)	
	CALL 教材開発	
現在の研究テーマ	地域日本語教育支援のための e ラーニング教材	
所属学会	日本語教育学会	
	英国日本語教育学会	
	日本語教育方法研究会	
主要著書・論文	「マルチメディア教材の解説と三段階アプローチの活用」(日本語教育国際研究大会論文集, pp.37-38, 2004)	
	「現代日本語コース　中級聴解(IJLC)」（凡人社、2006 年）	
	「中級日本語聴解コンピュータ教材（IJLC）における学習者のナビゲーションパターン」（日本教育工学科研究報告集 JSET07-1, pp.141-148, 2006）	
	「豊田市定住者対象の e-learning システム TNe とよた日本語 e ラーニングと自律学習」（小出記念日本語教育研究会論文集 no.18, pp.122-127, 2010）	
自己紹介文	アメリカで 2 年、イギリスで 10 年、日本で 7 年と世界中の大学で日本語教育の現場に携わってきました。コンピュータ日本語教育の研究をし始めたのは 15 年前からですが、その頃に比べるとコンピュータの技術はめざましく発達してきているにも関わらず日本での日本語教育の現場でもまだまだコンピュータを活用しきれていない状況です。この状態を少しでも良くしようと日々、教材開発と研究に勤しんでいます。現在までに開発した教材は多数 現代日本語コース中級聴解(IJLC)	

	ありますが、主なものは「現代日本語コース中級聴解(IJLC)」、「TNeとよた日本語 e ラーニング会話」です。又、名古屋大学の日本語オンラインコースの教材開発・運営もしています。研究はコンピュータ教材における学習者のナビゲーションパターン、携帯電話を利用した日本語教育、地域日本語教育支援のための e ラーニング教材を利用した日本語教育など日本語教育におけるコンピュータを利用した学習効果の分析および教材の評価を中心に行っています。
受験生へのメッセージ	コンピュータを利用した日本語教育に興味のある方は基本的に指導生として受け入れます。特に、コンピュータ教材開発をし、それを利用していかに日本語教育を効果的に行うかということを追求したいと思われている方は大歓迎です。コンピュータプログラミングの知識がある方が望ましいですが、動画の編集や html 及びソフトを利用したマルチメディア教材作成を学ぶ授業を行っているので前期課程の学生さんは教材開発に必要な基本的な技術を身につけるとともに、コンピュータ日本語学習をどのように授業に取り入れれば効果的かという理論も同時に学びます。後期課程の学生さんはオリジナルコンピュータ教材の開発とその教材を利用した学習効果を分析し教材評価を行うというような研究が主になってきますので、自分でコンピュータ教材開発が出来る方が望ましいです。もちろん日本語教育とコンピュータ学習に関わる研究で私の専門の領域と研究内容が近い学生さんは指導を行います。 TNe とよた日本語 e ラーニング会話